
ももとアヤメ

アオ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ももとアヤメ

【Nコード】

N6246M

【作者名】

アオ

【あらすじ】

泣き虫なももは勇気を振り絞り、人生で初めて告白する。
そんなももを、陰から支えるアヤメ。

二人は小学校のころからの親友だった。

「…わりい、もう俺、付き合ってるやつがいるんだ」

「……………そ、そうなんだ…」

彼はもう一度頭を下げた後、静かに私の横を通って自分の教室がある校舎へと歩いて行った。

私は一度も振り向かずただじっと立っていたが、下校のチャイムが鳴ると同時にわんわんと泣いた。

…なんて醜い女だろう。私は。

『えーっ、何それサイツター!! ももちゃん、それフって正解だったって!』

ケータイの液晶に、アヤメからのメールが映る。

告白したら結果を一番に伝えるところだったのは私だけど、電話じゃ泣いてしまうのでメールで済みます。

『「友達になってください」って言ったただけなんでしょ?! それ

を断るとは、あの薄情者：っ』

『いいの、私はこれで。知らない女の子にいきなり放課後体育館裏に呼び出されて「友達になって」って、もう「付き合って」って言われてるようなもんだよね』

そうだ、彼が悪いんじゃない。私が悪いんだ。

その後も2時間近く、アヤメからは私に対しての慰めと、彼に対しての怒りのメールが続いた。

アヤメは優しくてみんなからとっても信頼されてる、こんな内気な私のたった一人の友達だ。

……たった一人の友達だ。

「……これでいいのかよ」彼は言った。

「……うん、ありがと。大丈夫よ」私は言った。

「……あいつ、お前のちっせえところからの親友なんじゃねえの？」
彼はたずねた。

「……じゃ、私と別れてもちゃんと付き合う？」私もたずねた。

「別に、友達になってって言われたただけだぜ？」

「……………あの子の「友達」は、私一人で十分よ……………」

ももちゃんは泣き虫で、だけど私に優しくしてくれる、こんな私の
たった一人の親友。

…だれにも渡したくない。

告白の結果報告がメールでよかった。
ももちゃんの泣き声を聞かずに済む。

…ももちゃんは勘のいい子だから、彼が私と付き合ってることなん
てお見通しだろう。

ももちゃんに、彼に告白するよう仕向けたのは私だ。彼に、ももち
ゃんを振るよう仕向けたのも私だ。
早く彼をあきらめてほしかった。

私だけを見ていてほしかった。

私だけを、必要としてほしかった。

私だけを、私だけを、私だけを…………

また明日からは、いつもの二人でいられる。
どちらも互いを必要としていられる。
ももにとってもアヤメにとっても、たった一人の親友なのだから。

(後書き)

ももにとってアヤメは大切なたった一人の親友で、それはアヤメも同じです。

アヤメは友達はたくさんいますが、ももほど大切には思っていない。ん。

ももは友達がいないので、アヤメだけを大切にできます。

「自分だけを大切に思われている」っていうのも、アヤメにとって、ももが大切だと思う要因なのかもしれません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6246m/>

ももとアヤメ

2010年10月21日21時39分発行